

大西鉄之祐におけるスポーツ教育思想の研究:その体系・背景・実践

A study on the educational thoughts of Tetsunosuke Onishi — his philosophy ,background and practice —

1K04B221-6

森上 優貴

指導教員

主査 石井昌幸先生

副査 寒川恒夫先生

はじめに

大西鉄之祐は、早稲田ラグビーの根本を作り上げ幾度も早稲田ラグビーの危機を救った第一級の指導者である。数々の名勝負を作り上げた知将として有名だが、監督時代のことより教育者になるまでの人生、そして教育者になった理由や、教育論がどのように出来上がっていったのかということを中心に、私自身の考えも取り入れながら生涯を紹介していく。なぜ大西先生は、ここまで多大な影響力を持ち、カリスマ的指導者となりえたのか。他の指導者と違っていたところはどこか。そ大西先生の哲学・教育論を明らかにしていきたい。

第一章 大西鉄之祐の生涯

1. 誕生から早稲田大学入学まで

大西鐵之助は、1916年、大正5年4月7日、奈良県添上郡明治村出屋敷（現在の奈良市）に4人兄弟の末っ子に生まれた。そして昭和4年に奈良県立郡山中学（現郡山高校）に入学し、陸上部に入部した。その陸上部で大西は、八木忠雄という人物と出会った。その後、昭和9年、次男の勧めで早稲田に入学した。

2. 社会人時代から戦争まで

大西は早大卒業後東芝に就職した。大学卒業の昭和十四年、大西は兵隊検査を受け合格し、翌年十五年一月、現役兵として近衛歩兵第四連隊に入隊した。その後様々な戦地に行き、七年間を軍役に服していた。その間の軍隊生活および戦争経験が、大西の人生に大変革を与えた。

3. 戦後のラグビー復興から早大黄金時代まで

後は政難と食糧難で、食べ物はおろかラグビーの道具もろくになく、寮もぼろぼろの状態からのスタートであった。しかし、大西の指導で優勝常連校になり、その後の低迷期などでも大西が再度監督をし、その度に立て直して黄金時代を築き上げた。

4. 晩年

オリンピック委員になったり日本代表の監督になった。独自の理論で様々な方面に多大な影響を与え、1995年、胸部大動脈瘤により死去した。

第二章 大西思想の体系

1. 大西における文武両道

ただ両立させることなく、スポーツも勉強もつ

ながっており、勉強で得た知識や理論はスポーツの鍛錬により裏づけられ、自分自身の信念や社会生活における道徳となって体得されるという考え。

2. 闘争の倫理とスポーツ教育

理性的統制によって闘争の倫理を体現し、闘争を競技化し得る能力を十分持っているという信念。フェアプレーなど、他人に対して人間的にきれいな態度をとるという信念と習性を持たせることが大事である。

3. アマチュアリズム

大西のアマチュアリズムは普通とは違う。自由な思想として、価値のある試合をすれば、お金は絡むことはないと言っている。

4. プロとアマ

プロとアマを分けたために、アマチュアリズムの意義がわからなくなった。お金がかかると真剣勝負にならない。全力をつくすことが大事である。

第三章 大西思想の背景

1. 戦争経験と「闘争の倫理」

戦争という狂気の世界を体験し、その狂気をコントロールする自己を持つことが大切である。

2. デューイの影響

大西がもっとも影響を受けたものの一つがデューイの知性的行動の理論である。これが大西のスポーツ教育の考えの基となっている。

第四章 大西思想の実践

1. 教育の場としてのラグビー場

ラグビーにはチームプレーや知性的行動、自己のコントロールなど、人間にとって大切なことが学べるので素晴らしいと言っている。

2. 現在の早大ラグビー部と大西の思想

大西の思想は今も受け継がれていて、フェアプレーはもちろん、自分たちで考え分析、行動していくことが染み付いている。

おわりに

指導者としても凄いが、なぜこんなにも影響があるのかというと、指導にも教育論にも、大西自身の愛があり、すべてのことにおいて全力を尽くすからである。ラグビーは人格者を育てるスポーツであり、大西の教育論は、人間形成においてとても必要である。